

ヒラメ・クロソイの放流

9月10日（木）ヒラメ33,500尾、14日（月）にクロソイ7,000尾を放流しました。

この稚魚は北海道栽培漁業振興公社瀬棚事業所より配布されたもので、資源拡大を図るために津軽海峡地域水産人工種苗育成供給協議会の事業の一環として行われているものです。

ヒラメ

吉岡漁港より放流



クロソイ

福島漁港より放流



ヒラメのあれこれ

「右カレイ左ヒラメ」と言われるように、ヒラメの体は平らで腹を下にした時に目が左に集まっています。これはヒラメが海底の砂に隠れ、餌を食べるためと考えられています。しかし、生まれたときは普通の魚と同じように左右に目があり、成長にしたがって成魚のヒラメと同じように左側に目が集まっていきます。

クロソイのあれこれ

福島町では主に釣りや定置網、刺網で通年漁獲されています。味は大変美味で、本州では高値で取引される高級品でもあります。ちなみに、クロソイの活動範囲は比較的狭く、港近くにもいるため、磯釣りの対象として人気のある魚でもあります。釣り上げた魚を家で調理する方は多いと思いますが、鱗やえらぶた、背びれの棘などが固いので、調理の際には丁寧に取り除くことが大事となります。